

日米欧のデータベース

バイオ情報一括検索

阪大教授ら
新技術

大阪大学情報科学研究科の松田秀雄教授らは十三日、医薬品開発を効率的に進める情報技術（IT）を開発したと発表しました。日米欧の複数のバイオテクノロジー関連デ

ータベースをひとまとめにして扱う技術で、医薬品候補となる物質を素早く検索できる。新薬開発期間を大幅に短縮できると期待している。日米欧に分散している

十一種類のデータベースをネットワークで結びつけて利用する。「データグリッド」と呼ぶデータベースの統合技術を利用した。医薬品が作用するたんばく質などの情報を

もとに、医薬品として使える物質を探し出す。たんばく質や遺伝子、薬物など多様なデータベースを一つのデータベースのように操作できるように、検索作業を大幅に効率化できる。使用者の熟練度や検索内容にもよるが、従来数週間かかっていた作業が、数分に短縮できる可能性があるという。

日立ソフトウェアエンジニアリング、三菱スペース・ソフトウェア（東京・港、三宅道昭社長）などが開発に協力した。文部科学省の研究プロジェクトの一環。